

会 議	平成29年度 第1回幸田町総合教育会議 会議録
日 時	平成29年6月6日(火曜日) 開会 午前 9時 閉会 午前10時17分
場 所	幸田町役場 4階 401会議室
構 成 員	町 長 大須賀 一誠 教育委員会 教育長 小野 伸之 教育委員会 委 員 川口 江美子 教育委員会 委 員 中根 晃 教育委員会 委 員 平松 敏明 教育委員会 委 員 高橋 文代
欠 席 構 成 員	なし
傍 聴 者	なし
構成員以外の出席者	副 町 長 成瀬 敦 企 画 部 長 近藤 学 企 画 政 策 課 長 三浦 正義 企 画 政 策 課 長 補 佐 横田 隆之 住 民 こ ど も 部 長 都築 幹浩 こ ど も 課 長 長谷 優一郎 教 育 部 長 志賀 光浩 次長兼学校教育課長 牧野 宏幸 生 涯 学 習 課 長 稲熊 公孝 学校教育課教育指導監 志賀 浩美 学 校 教 育 課 長 補 佐 小塚 弘樹
会議に付した案件	○意見交換 ・幸田町高校生カンボジア派遣事業について ・多文化共生事業について
決 定 事 項 及 び 主 な 意 見 等	・高校生カンボジア派遣事業については、文化の違いを学び、視野を広げる良い機会として、多くの参加を期待する。 ・外国籍住民が、日本(地域)に溶け込んでもらえるようにしていきたい。

発言者	発言の主な内容
企画部長	○開会の言葉
町長	<p>○あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の運動会では、子どもたちの活気ある姿を見ることができた。</li> <li>・町内在住高校生を対象に、カンボジア派遣事業を実施する。幸田ライオンズクラブ（以下「幸田LC」）、幸田町国際交流協会（以下「KIA」）及び幸田町が連携して取り組んでいく。</li> <li>・豊坂小学校区に児童館を建設する。児童館のみでなく、高齢者から子育て世代も利用できる多世代交流施設として機能させていく。</li> <li>・昨年度策定した「幸田町教育大綱」を基に、幸田町が更に元気になるよう、子育てや教育について推進していきたい。</li> </ul>
教育長	<p>○あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まった議題を、時間をかけて意見交換できる総合教育会議は、非常にありがたい機会である。</li> <li>・町長と副町長に出席していただける大事な会議であるので、委員の皆さんにも積極的に御意見をいただきたい。</li> </ul>
町長	○議題(1)「幸田町高校生カンボジア派遣事業について」説明を求める。
企画政策課長	<p>(1)「幸田町高校生カンボジア派遣事業について」説明</p> <p>○事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年1月18日に締結した「カンボジア王国シェムリアップ州と幸田町との間に交わす友好に関する覚え書」に基づき、主に同州トラキエット小学校を交流拠点として、更なる友好交流を推進するもの。</li> <li>・高校生をカンボジアに派遣し、広い視野と豊かな国際感覚を持った人材を育成する。</li> </ul> <p>○実施主体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸田LC、KIA及び幸田町にて構成する「幸田町高校生カンボジア派遣事業実行委員会」。事務局は幸田LC内に置く。</li> </ul> <p>○派遣先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジア王国シェムリアップ州のトラキエット小学校等</li> <li>・カンボジアを派遣先とした理由</li> </ul> <p>①幸田町</p> <p>平成17年に開催された愛知万博の「一市町村一国フレンドシップ事業」でカンボジア王国とパートナーとなり交流が始まった。</p>

	<p>万博終了後もカンボジアから青年たちを招き交流や視察を実施し、平成22年には覚え書を締結し、継続して交流している。</p> <p>②幸田LC 平成21年にトラキエット小学校の改築、平成24年には図書館の建設をしてきた。毎年カンボジアを訪れる際には、町内小中学校・高校から集めた楽器や文房具を寄贈するなどトラキエット小学校の支援活動を続けている。また、幸田高校生によるトラキエット小学校支援ツアーも平成26年度から3回実施している。今回の派遣事業は、それを継続発展させたものである。</p> <p>③KIA 平成16年からカンボジアフレンドシップ旅行を企画開催。町内では、カンボジア理解講座や留学生を町に招くプログラムを実施するとともに、平成25年から4年間に渡り、CPC（カンボジアの就学前幼児の保育・知育を支援する）事業を実施してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このような3つの団体が連携し、さらにカンボジア王国シェムリアップ州との交流を推進していきたい。</li> </ul> <p>○派遣期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年3月22日から28日までの5泊7日を予定</li> </ul> <p>※行程案についても説明</p> <p>○主な事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①トラキエット小学校での運動会及び文化交流会</li> <li>②同校5年生を対象とした修学旅行</li> <li>③日本語学校生徒との交流会</li> <li>④上記①～③を高校生自ら企画し、実施する。</li> </ol> <p>○派遣の対象及び募集人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内在住の高校生で10名以内</li> <li>・対象を高校生としたのは、プログラムの企画から実施までのカリキュラム及び滞在する環境がハードであるため、中学生では厳しいと実行委員会で判断したため。</li> </ul> <p>○参加費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人負担5万円。ただし、生活保護世帯等の個人負担はなし。</li> </ul> <p>○募集等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報こうた6月号やチラシ等で広く周知し、7月14日まで申し込みを受け付ける。</li> <li>・7月下旬に実行委員会による面接を実施</li> </ul>
町長	○説明に対する意見聴取

委員	○質問 ・既に募集はあるか。
企画政策課長	○回答 ・問い合わせはあるが、申込みはない。
委員	○質問 ①幸田LC、KIA、幸田町の3団体が連携して実施するきっかけは。 ②「町内在住」に絞った理由は。
企画政策課長	○回答 ①今まで、幸田LC・KIAそれぞれでカンボジアとの交流を進めてきたが、町が間に入り、新たに交流を進めることとなった。まずは高校生の支援ツアー（幸田LC）をメインとし、今後の多文化共生（KIA）につなげていきたいという考えから、3団体にて連携していくこととなった。 ②在学（幸田高校生）も可とすることも検討したが、幸田LCの過去3年の実績から町外からの参加が少なかったため、まずは町内在住の高校生からスタートすることとなった。 平成26年度：5人、平成27年度：8人、平成28年度：3人 平成27年度の参加者8人の内、3人が町外在住者だった。今後の状況をみて、見直すことも検討したい。
委員	○上記回答への意見 ・町内在学も、と思っていたが、これまでの経験から町外在住者からの参加者が少なかったのであれば、在住のみでスタートするのも良いと思う。
委員	○質問 ・海外の情勢や安全上の問題から中学生の海外派遣を取りやめになっているが、この事業を通じカンボジアという国が安全と確認できた場合には、対象を中学生に変えることもあるか。
町長	○回答 ・中学生の海外派遣事業は、町長部局の事業であるが、教育委員会の「危険」という判断により休止している。今回の派遣事業と同じプログラムでなくても、中学生に合わせたプログラムに変えても良いと思う。また、毎年カンボジアでなくてもグローバルなものを見るということで行き先を変えていくことも検討していきたい。
委員	○意見 ・小・中学校の授業にて、カンボジアの事を学んでいる様子。高校生になったら派遣事業に参加できることを知れば、もっと興味を持つ

	てくれると思う。
町長	○上記意見から ・小・中学校で、カンボジアについて学ぶ機会があるか。
教育指導監	○カンボジアの学習について ・実態をつかんでいないが、社会や地理の授業などでカンボジアに触れる機会があるかもしれない。
教育長	・世界史で学んでいるかもしれない。
委員	・子どもたちは、(カンボジアを) 幸田町と仲良くしているということを知っているとのこと。
町長	・学校のボランティア活動として、カンボジアへの支援品(文房具や衣類など)を集めていることから知っているのかもしれない。興味を持った子は、是非申し込んでほしい。
委員	○意見 ・文化の違いを学び、視野を広くする良い機会になると思う。そして、このツアーに参加した子たちが経験してきたことを、他の子たちに伝え、広げる機会があると良い。
企画政策課長	○回答 ・報告ということで、参加者には感想文を書いていただき、広報紙にも掲載していく予定。 ・今年の3月に幸田LCの支援ツアーに参加した子(幸田高校生)たちは、学校内にて報告会を行う。また、6月末に本事業の事前説明会を行うが、その場でも自分たちが体験してきたことを語っていただく予定である。
町長	○カンボジア王国シェムリアップ州公式訪問について ・この事業とは別に、本年度、教育長、議長、企画政策課長にカンボジアへ行っていただく。 ・日本の歴史と比べ、カンボジアの歴史は非常に深い。子どもたちの大きな勉強、交流事業になることと思う。
教育長	○意見 ・中学生の海外派遣について、行き先を議論することがあった。英語を勉強するなら英語圏、英語を使って交流するなら英語圏以外が良いと思っていた。 ・日常会話が英語以外の国なら、コミュニケーションツールとして英語を使わざるを得ない状況になる。積極的に英語を使おうという意識とお互いが理解し合おうとするため、より交流が深まると考える。 ・「英語を学ぶ」、「交流をする」などの目的によって、行き先も変わっ

	てくる。
委員	<p>○意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアで生きている子どもたちや学校の様子を見て、「(他人のために) 何ができるか」と考える良い機会になると思う。</li> <li>・比較的時間に余裕のあるシニア世代にボランティアとしてカンボジアに行っていたかどうかは考えていないか。</li> </ul>
企画政策課長	<p>○回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・覚え書の3条に各部門において交流プログラムを協力推進している。現在は教育に焦点を当てているが、他部門の交流についてもいずれ検討していきたい</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアボランティアについては、次のステップとして考えていきたい。</li> </ul> <p>▼以上で本議題については終了とする。</p> <p>○議題(2)「多文化共生事業について」説明を求める。</p>
企画政策課長	<p>(2)「多文化共生事業について」説明</p> <p>○多文化共生とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸田町にお住いの外国籍住民の方も日本国籍の町民の皆様と同じように公平に幸せに暮らしていただけるような施策を進めていくことが多文化共生事業である。</li> <li>・幸田町には、5月31日現在、874人の外国人が暮らしている。町全体人口の2.14%にあたる。年度別では、平成20年に1,000人を超えたが、社会・経済の影響により減少傾向にあったが、平成26年度意向、再び増加に転じている。</li> <li>・国籍別では、1位のブラジルと2位のフィリピンで町内外国人割合の5割以上となる。3位の中国、4位のベトナムを合わせると8割近くになる。</li> <li>・外国人874人の内、中学生以下に該当する16歳未満は112人。1年前は102人だったので、増加傾向にある。</li> <li>・地域別では、岩堀区と芦谷区に多くの外国人が暮らしている。</li> </ul> <p>○幸田町の多文化共生の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年から役場内にポルトガル語の通訳を、毎週月・水・金に配置している。</li> <li>・外国籍住民会議を年2回開催。いただいた意見や要望は関係課と情報共有し、町の多文化共生施策の参考としている。</li> <li>・まちを知るツアーは年1回開催。30人程の外国籍住民が町内の公共施設や商業施設を見学している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災訓練にも町内企業の外国人研修生が参加。訓練会場には、多言語化した案内を表示し、避難所などは外国籍住民の方も利用することを町民の皆様に理解していただいている。</li> <li>・日本語を教えることができるボランティアを養成する講座を開催している。K I Aが毎週日曜日に開催している「日本語サロン（日本人ボランティアが外国籍住民に日本語を指導する）」の課題として、指導者不足がある。指導者を確保する取り組みとしている。</li> <li>・その他、多言語による各種案内を活用している。</li> </ul>
次長兼学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『日本語教育』を必要とする児童生徒の言語別状況について」説明</li> <li>・小学校には、坂崎小学校を除く5つの小学校に、日本語教育が必要な児童が29人いる。その子たちには、県の担当教員と町の嘱託教員が日本語教育に当たっている。</li> <li>・中学校には、日本語教育が必要な生徒が全体で21人いる。県の担当教員が日本語教育に当たっている。</li> <li>・小・中学校合わせると50人いる。昨年度（54人）から、若干減っている。</li> <li>・言語別状況としては、ポルトガル語とフィリピン語（17人ずつ）が特に多く、町の母国語対応支援員が日本語教育を補助している。</li> </ul>
こども課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「保育園外国人児童数」について</li> <li>・坂崎保育園を除く7保育園に、19人の外国人児童がいる。</li> <li>・国籍別ではフィリピンの児童が多い（7人）。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明に対する意見聴取</li> <li>○質問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍町民会議では、町に対する要望など意見を聞いているのか。</li> </ul> </li> </ul>
企画政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○回答 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は2回開催した。1回目は4人（ブラジル1人、韓国1人、ベトナム2人）、2回目も4人（ブラジル1人、中国1人、カンボジア1人、ベトナム1人）に参加いただいた。</li> <li>・参加の条件として、ある程度日本語で会話できる人としている。</li> <li>・K I Aが開催している「日本語サロン」に通う外国人で、参加希望者に出席していただいている。</li> </ul> </li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・先日の中学校春季大会で、頑張っている外国人生徒の姿があった。各行事を見ても、外国人の子どもたちが学校生活の中に溶け込んでおり、日本の子どもたちが受け入れていることに感心した。</li> </ul> </li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥さんや子どもは、地域になじみ日本語を話せるが、男性はあまり話すことができない様子。外では日本語だが、家庭内では母国語を話しているケースが多いと感じている。日本語サロンには家族で参加できると良いと思う。</li> </ul>
委員	<p>○意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前、地域に住む外国人のゴミの出し方に問題があったが、近所の人が親切に教えて、今ではきちんとゴミ出しをするようになった。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県内には、外国人（多国籍）児童・生徒の割合の方が多いい学校もある。在学している間に日本（住む地域）のことをしっかり理解してほしい。</li> <li>・文化が違う分、日本人とは違う感覚（宝）を持っていると思う。問題があったときだけ外国人を取り上げるのではなく、多文化共生事業を通じて、交流を図り、お互いを理解できると良い。</li> <li>・中国人が日本の学校給食の配膳シーンを見て、震災時に食料の取り合いにならなかった理由がここにあると感じたとのこと。日本の良さを知ってもらうことも多文化共生として取り上げてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園や小学校に通う外国人の子どもたちは、子ども同士の交流の中で、日本語を身につける。その子どもが、日本語がわからない保護者の通訳になることも大事だと思う。子どもを通じて様々な啓発をしていけると良い。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問をした際、外国籍の児童生徒をきめ細かく指導している先生達があり、本当にありがたく思う。</li> <li>・就学支援制度などの情報を、先生を介して保護者にお知らせしていただけるとより良いと思う。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の人口推計は、減る一方で、労働力不足になる。日本の生産力を鑑みても、外国人労働力は貴重なので、労働条件を整えることも必要と考える。</li> <li>・特区制度を活用して小学校から英語を学ぶ自治体もある。校内で英語を活用することで、様々な国の人たちの交流が深まることと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で、(外国人の子と日本の) 子どもたちがタブレットを使って会話をしているシーンを見た。</li> </ul>
町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末などを使うことも一つの方法かもしれない。</li> <li>・今後、日本人の人口も減少していく中で、外国人の人口も増えており、多文化共生はしっかりとやらなくてはいけないものと思っている。新たな方策を検討していきたい。</li> </ul> <p>▼以上で(2)本議題については、終了とする。</p>



副町長	<p>○あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広いテーマに御意見いただき、大変充実した会議となった。</li> <li>・「14歳」で活躍する、将棋の藤井君や卓球の張本君たちに興味を持っている。以前と比べ、好きなことを一途にやれる環境が整ってきたことが活躍につながっていると感じている。</li> <li>・「幸田町にいたおかげで、好きな道を見つけることができた」と言ってもらえるまちづくりを進めていきたい。</li> </ul>
企画部長	<p>○次回の開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回を10月頃に開催予定</li> </ul>